

## 学び合いの中で自分の思いを工夫して伝えようとする子どもの育成

— 小学6年 Let's go shoppingの実践から —

### 1 授業の構想

#### (1) 子どものとらえについて

本学校園では、「友だちとのかかわりを大切に、互いの考えや気持ちを伝え、それを尊重し合う姿」「知的好奇心や課題意識をもって学び、自己の伸長を図る姿」を外国語活動の「豊かな学びの姿」と考え、授業実践を行っている。本学級の子どもたちは、外国語活動を毎回楽しんで行っている。買い物ゲームについては5年生の時にも、「先生が教えてくれた英語表現を使って買い物をしよう」というめあてのもと行っており、本単元では、6年生になって久しぶりの買い物ゲームを行うことになる。A児は、第1次の買い物ゲームをしながら考えたことを次のように日記に書いている。

今日は英語で買い物をしました。買い物をしながら考えた事は2つあります。1つはジェスチャーが多いこと。指で指したり、手を横にふったり（ちがうのサイン）。意外と多かったです。2つ目は、単語で会話が成り立っていることです。「サンキュー」や「グッド！」など、単語で話していることが多くて、これはおどろきでした！（児童A）

児童Aの日記からは、子どもたちにとって、これまでの外国語活動は、ALTの先生が教えてくれる英語を使って楽しくコミュニケーションを行う活動であったが、たくさんの英語表現を身につけることだけが必要なのではなく、その場に適した少しの英語と身体全体を使ったジェスチャーなどの非言語を交えて自分の思いを工夫して表現する活動となっている様子が見える。

学級の中には、自分の気持ちを言葉を使ってうまく伝えられない子がおり、また、相手が何を伝えようとしているのかを聞きとることが苦手な子がいる。また、これまでの外国語活動では、教師と子、子（1人）と子（1人）、教師と集団の形での活動を行ってきたため、コミュニケーションが一方通行になりがちで、双方向のコミュニケーションをとることは難しかった。「外国語を使ってゲームや会話をしたい」という思いは、プリントを配布する時、「How many〜?」「Three. Thank you.」などの表現を自分から使おうとする姿が見られることからうかがえる。また、外国語活動の時間の中で行っているコミュニケーション能力の向上をねらって行う活動においては、進んで友だちや指導者とかかわろうとする姿が見られる。しかし、友だちと相談しながら表現を選んだり、決められた表現以外のコミュニケーションの方法を自分から工夫して取り入れたりしている子は少ない。

#### (2) 本単元の目標や内容と外国語活動・英語科で考える思考力・判断力・表現力の育成とのかかわりについて

本単元では、上記のような子どもたちの実態を基盤としながら、楽しみながら買い物ゲームを行う学習活動の中で、英語表現に親しむとともに、学級全体で意見を交わすことにより、自分の思いを伝えるために工夫してコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を高めていくことをねらいとした。単元を構成するにあたっては以下の点に留意した。

##### ① 中学校の英語教師やALTと一緒に買い物ゲームを行うことで、「もっと伝えたい」のために「もっと使える表現を知りたい」という思いをもてるようにする。

外国語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうという意欲を高めるためには、何よりも「楽しい」「もっと知りたい」という子どもたちの英語表現に対する必要感が必要であると考えた。そこで、第1次では、普通の授業とは違う中学校の英語教師やALTに出会う場面を設定し、スピーチを聞いた後ALTの開くお店で買い物をしたりする時間とした。また、「日本語は使わない（NO JAPANESE）」というルールを決め、自分が伝えようとする事柄を既習の英語表現の中から考えて選び、表現できるように場面を設定した。そして買い物ゲームを行う中では、どうしても伝えることができないという子どもたちのために、英語教師から必要な英語表現を聞くことができるようにした。子どもたちの知りたい、伝えたいという意欲を引き出し次時につなげる。

②買い物ゲームをくり返し行い、小グループや学級全体で意見を交流する活動を取り入れ、友だちのよいところを取り入れたり、もっとうまく伝えるための方法を考えたりする活動を取り入れる。

英語を使って「どうしたらより相手に自分の思いを伝えられるか」を、買いものゲームをくり返し行う場面を設定し、その都度、学級全体や小グループで話し合う機会を設け、そこで意見交流してわかったことを次のゲームに生かしていくことで、英語を「自分の気持ちを伝えるツール」として工夫して使おうとする態度を養うことをねらった。自分の気持ちをジェスチャーや表情を交えたり、知っている単語を組み合わせたたりして、工夫して表現することで、「どういえば伝わるかな」「友だちは何を伝えたいのだろう」などの思いをもち、それが伝わり合うことで「自分の気持ちを伝えようと積極的に関わりを求める姿」や「よりよく伝える方法を追求する姿」が見られると考える。

### (3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構成について

新学習指導要領で示されているように小学6年ではスキルの習得を目指しているのではなく、英語を使った体験活動の中で、その場に適した形で活用することを通してコミュニケーション能力の素地を養い、言語への感性をはぐくみ、中学校での英語科への接続を目指している。子どもたちが「もっと知りたい」という意欲を常にもちながら活動し、友だちと意見を交流する中で自分の思いを伝えるための工夫を広げたり深めたりしながら一人ひとりのコミュニケーション能力を高めていけるよう、教師は子どもたちの考えや思いをつないでいくようなはたらきかけを行う。また、くり返し行う買い物ゲームの中で子どもたちが工夫して思いを表現している姿や悩んでいる姿などをとらえておき、小グループで話し合う時間ではリーダーの役割を設けることで子どもたちだけで自由に意見交流ができるようにする。小グループでの話し合いの後に学級全体で話し合う時間をつくり、買い物ゲームの時にとらえておいた子どもたちの様子から「思わず日本語で言ってしまったことは何？」や「こうしたらうまくいったということは何？」と問いを選んで話し合いをコーディネートしていく。話し合いの中では、「どうしてそういう表現を使ったの？」や「〇〇さんが言ったことは、使えそう？」など問い返したり、掘り下げたりするはたらきかけを行うことで、自分の思いを工夫して表現している良さを共有して広げ、友だちのよいところを取り入れて2回目の買い物ゲームに生かすことができるようにする。こうして自分の思いを英語を使って表現することの楽しさや伝わるうれしさを高めていきたい。

## 2 展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	中学校の先生と一緒に買い物ゲームをしよう！	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードゲームで数字の復習をしたり、楽しく学習を行う雰囲気作りをしたりする。</li> <li>・買い物に使う英語表現を知り、くり返し声に出して練習をする。</li> <li>・少人数のグループで買い物リストに従って買い物をする。</li> </ul> ◇知りたい英語表現を出し合うことで、買い物ゲームを楽しむためには、どのような表現を使うとよいのかを考えたり工夫しようとしたりする。
2	英語を使って、楽しくコミュニケーションをしよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミッシングゲームで数字の復習をしたり、楽しく学習を行う雰囲気作りをしたりする。</li> <li>・前時で出された疑問を解決したり、新しい表現を知り、くり返し声に出して練習をしたりする。</li> <li>・買い物ゲーム（2回目）を行う。</li> </ul>
		課外	・買い物ゲームで自分が売りたい商品を自由に選ぶ。
		3	◇NO JAPANESEで自分の思いを伝えるためにアイディアを出し合うことで、知っている単語を工夫して使おうとしたり、非言語によるコミュニケーションの方法の良さに気づいたりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・NO JAPANESEで自分の思いを工夫して表現し、買い物ゲーム（3回目）を行う。</li> <li>・グループごとに話し合う時間をとり、もっとうまく売ったり買ったりするための方法を考える。</li> </ul> ◇学級全体で、買い物ゲームをやってみて気がついたことや困ったことを出し合い共有することで、自分の思いを工夫して伝える方法について考えを広げたり深めたりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことを生かして買い物ゲーム（4回目）を行う。</li> </ul>
		4	

## 3 授業の実際

(1) 第1次 ～中学校の先生と一緒に6年生全体で買い物ゲームをしよう！～

中学校の英語教師との出会いの場面でもあったので、初めは、アイスブレイキングとして、自己紹介やキーワードゲームなどをしてふれあい、あたたかい雰囲気の中で学習が進められるように配慮した。そして、その後、買い物をするときに必要な表現として、次の5種類を知り、くり返し口に出して練習した。練習を行う際には、教師一団の学習形態だけでなく、子一教師、子一子でのデモンストレーションを行い、英語が得意な教師だけでなく、同じ学習者である友だちの会話を聞くことにより自信をもって買い物ゲームに取り組むことができるようにした。

●Hi!/Hello! ●How much is this? ●It's ○○ bibit. ●Here you are. ●Thank you.

また、使う言葉は常に黒板にイラストとともに掲示しておき、子どもたちが忘れたときにすぐに思い出せるようにした。また、bibitという附属小学校の中だけで通用するお金を使い、子どもたちに親しみをもたせた。その後ゲームを行い、買手は買い物リストにしたがって買い物をしていたが、リストの中にはお金が足りなかったり、服のサイズや色が違っていたり、買うことができない商品が入っている。また、教師の店に必ず来なければならないというルールを設けたが、これは次のような意図で行った。

- ①子どもたちの英語表現を価値づける。
- ②持っているお金では買えない値段を設定し、どういえばよいのかを考える機会をもつ。
- ③買い物リストに載っている商品がなく、どういえばよいのか考える機会をもつ。

またこの第1次は、6年生全員で学習を行い、より多くの会話の機会が保障できるようにした。その中では、積極的にたくさん友だちとかかわろうとする子もいる一方でなかなか表現に慣れず、思うように買い物ができていない子もいた。授業後のふりかえり用紙に次のような感想を書いている。

- ・私は積極的に話すことはできなかったけど、他の人の会話を聞いて何を言っているのかはわかるようになったので、次にやったらきっと今回よりは積極的に話せると思う。(児童B)
- ・英語がわからないときがあったので、これから直していったり、覚えやすいように工夫したりしながら今度は言ってみたいと思う。(児童C)

児童Bの記述からは、積極的に会話をすることはできなかったが、友だちの活動の様子を見て相手の言いたいことを理解しようとする姿がうかがえる。また、児童Cの記述からは、教師から与えられた表現をただ使うだけではなく、そこに自分なりの工夫を取り入れたいと考えている姿がうかがえる。買い物ゲームを行うのは、1年ぶりであるにもかかわらず、買い物のときに使う表現をよく覚えていた子どもが多く、児童Cのように、もっと自分の思いを表現したり伝えたいという意欲的な態度が見られるようになっていたことが分かる。この時間の後半は日本語を使う場面も大変たくさん見られた。その原因は、「もっと話したい！」という思いは強いが、それに合った英語表現が分からなかったためだと考えられた。ふりかえりカードには、「こんなときどういうの？」という項目をあげ、子どもたちが知りたかった英語表現を書けるようにした。

- ☆子どもたちが知りたかった英語表現
- ・品がなかった時「〇〇は売っていますか？」
  - ・どちらかを聞く時「〇〇は～ですか？」
  - ・「もう少し安くしてください。」
  - ・「この種類の別の色は？」
  - ・お金が足りないお客さんに対して何と言えばいいか。
  - ・「なぜこっちの方が安いんですか？」
  - ・お金が足りないことに気付いたとき。
  - ・「両替してください。」
  - ・2つ買うときの言い方。
  - ・「どうして白いレインコートはないの？」
  - ・「これを売っている場所は、どこですか？」
  - ・「お金を渡すとき」

この日の感想からは以下のようにNO JAPANESEのルールを意識して日本語を使ってしまったことを後悔している様子や、話せなかったからこそ「もう一回やりたい。次は英語で話したい」と考えている様子が見られた。このことから、第1次の活動は、子どもたちに「どうしたらもっと楽しく買い物をできるのか」を考えさせる場となったといえる。

- ・日本語は使っちゃだめだったんだけど、つい使っちゃってやっぱり普段使わない英語だと難しいと思った。(児童D)
- ・みんなで協力して買うことができたのでよかった。ちょっと日本語を話してしまったので、これからの外国語活動では英語のみで話していきたいと思った。(児童E)
- ・少し日本語をしゃべってしまったけれど、英語も楽しく喋れてよかった。ゲームもすごく楽しかった。最後に先生が「中学校ではもっと英語がしゃべれるようになるよ。」とおっしゃったので、中学校の英語が楽しみです。(児童F)
- ・たまに英語を忘れてしまうので、しっかりと覚えたい。まだまだ、わからない文や単語をしっかりと覚えて、外国でも通じるようにする。(児童G)

## (2) 第2次 ～英語を使って、楽しくコミュニケーションをしよう～

第1時に出てきた子どもたちの疑問や知りたいことをお互いに共有し、教師がそれに答える時間を設け、子どもたちの「伝えたい」という意欲を高めてから、もう一度買い物ゲームを行った。わからなかった英語表現がわかったため、前時と比較して積極的に友だちに話しかけている子どもが増えた。また、ただ売り買いするだけではなく、売る作戦や買う作戦を考えて買い物している子どもが増えた。例えば、売る作戦として多く見られたのは、安く売ること、買う作戦としては、店員に粘り強く交渉して安く買うといったものであった。また、ALTから、お金がないときは物々交換に挑戦できることを全て英語で話してもらったが、ALTのジェスチャーをよく見ながら話している内容を読み取ろうと努力していた。相手の伝えようとするのを、目と耳を使ってよく聞きとろうとする態度が育っていくことも、コミュニケーション能力の素地を育成していく上で英語を取り扱うよさであると感じた。

このように自分から工夫する姿がたくさん見られたところで、もっと楽しく、自分で考えたことを実践できるような場面を設定するために、第3・4時は、2時間続けて買い物ゲームをする時間を確保することを子どもたちに約束し、課外として、自分が売りたい商品のカードを自由に選ぶことができる時間を設けた。以下は第3時の授業記録の抜粋である。

T: 今日めあては、「英語を使って、楽しくコミュニケーションをしよう」なので…  
 児童G: 「NO JAPANESE」でしょ。  
 T: そうだね「NO JAPANESE」でがんばってください。  
 児童N: 先生! ジェスチャーはあり?  
 T: おお。ジェスチャー! すばらしい! 先生は、言葉のことだけを言ったんだけど、Nさんが言ったみたいに、ジェスチャーもO.K. 他にもみんなが知っている「自分の気持ちとか思いとかを伝える方法」ってない?  
 児童D: アイコンタクト!  
 T: アイコンタクト、いいね!  
 児童G: 空中に字を書く!  
 児童N: 念力!  
 児童R: 手で…身振り、手振り!  
 T: 他にはどう?  
 児童N: 表情!  
 T: 表情もいいですね。みんなが出してくれたようなことを使うと、「NO JAPANESE」でも伝えられることが広がるかもしれないね。



子どもたちは、前時までの学習を想起し、NO JAPANESEのルールを強く意識していた。また、N児の発言にもあるように、ジェスチャーを使って伝えることのよさに気づいている子どもも多かった。これまでの外国語活動において、非言語を使ってのコミュニケーションも大切に実践してきたので、「自分の思いを伝える手段」が他にもないかとの問いかけにも、上記のようにいくつも挙げていた。実際にこれまでも使っていた子どもたちは、学級全体で共有できたことによってより自信をもって活動に生かしており、また、これを機会に自分の思いを伝える表現として自分の中に取り入れる子どもも出てきて、この後の活動では、全員が何らかの非言語でのコミュニケーションを用いるようになった。この後、買い物ゲームの新ルールを提示し、全員で確認した。

- ルール①グループでお店を開くこと。
- ルール②店長役を決め、店長は店員にアドバイスをしたり、相談にのったりすること。
- ルール③なるべく多くの商品を買って、買った商品は、自分の商品として売ってもよいこと。

店長の役を設定したことは、客観的に友だちの取り組みを見ながらアドバイスや相談できる体制を仕組むことで、その後のふりかえりやわかり合う場で、多様な考えが引き出せると考えたからである。そして、1回目の買い物ゲームを行った後、もう一度全員で集まり、まず同じグループで話し合う時間をもった。店長を中心としたグループでの話し合いでは、相談したいことがたくさん出され、活発な話し合いがなされた。その後、学級全体で話し合う時間をもった。以下はその抜粋である。

T: 他にこうしたらよかったよというのがありますか。  
 児童N: 全ての商品を激安にした。  
 T: Nさん、どんな風に言ったの? 先生はNさんのお店が安くなってよかったけど、他のお客さんはNさんのお店が安くなって知らなかったでしょ?  
 児童N: 「オール1ビビット!」とか。  
 T: なるほど。「オール〇〇ビビット」を使ったんだね。叫んだの? Nさんの声が聞こえた人?  
 (2人が挙手する)  
 T: 100円均一も、よく売れるもんね。Iさんたちも、その作戦で売っていなかった?  
 児童J: うん。  
 児童P: 単品で15ビビットのが2つあって、2つ共買ったら25ビビットになるとか、何て言うかわからなかったけど…  
 児童G: ああ、おまけみたいな感じだね。  
 児童P: そうそう。2つ買ったら25ビビットにしたんだよ。  
 児童N: 5ビビット安いから売れやすくなるね。  
 T: それ、どうやって使ったの?  
 児童D: 日本語で? それとも英語で?  
 T: 「NO JAPANESE」なのに、どうやったの?  
 児童P: (身振り、手振りで表現をする。)  
 児童N: ジェスチャーを入れながら、2つ(指を“2”にして)合わせて(手を合わせて)25ビビット(指で“25”を作る)

児童Nのように安売りしたことを主張する子には、どのように客に伝えたのかを説明するようはたらきかけた。また、話し合いが深まってくると他の友だちがどのように工夫していたのかを聞きたい、自分も真似したいという意欲が高まり、話し合いはジェスチャーなども含め盛り上がりつつあった。自分たちで選んだ商品を使って意欲をもって活動に取り組んだことが「伝えたい」気持ちを高めることに有効であったと感じた。その後、前時の終末に日本語での表現が増えていたことやそれを英語で言いたいという子どもたちの感想を取り上げつつ、「今日、思わず日本語で言ってしまったことはどんなこと?」と問いかけた。以下はその抜粋である。

T: 思わず日本語で言ってしまったことは、どんなこと?  
 児童O: 「お願い!」  
 児童J: 「安いわ〜。」お店やさんのとき。  
 児童S: 「おつりください。」も。  
 T: どんなときに思わず日本語が出てしまったの?  
 児童T: 最後に店じまいセールをやって、「全部で〇〇〇〇〇〇だよって。」言うとき。  
 児童R: 買うときに、普通に数字で9(きゅう)ビビットって言ってしまった。  
 T: あ〜思わず9(きゅう)ビビットって言ってしまったんだ。  
 児童D: まけてもらうために、「お兄ちゃんいい男だね。」って言いたくて。  
 T: こんなことが言えると、もうちょっとお店やりやすくなるかもね。言えそうかな。  
 児童G: very man! かな。  
 児童R: Good man! かな。  
 T: good boy! pretty prettyもいいね! そんなこと言われると、ちょっと安くしてもらえそうだね。ほめる言い方を知っておくといいかもね!  
 T: 「まけてよ」は、みんなOKだよ?  
 児童L: ダウンタウン(ジェスチャーをつけて言う)  
 T: 「お願い」はどう? プリーズだったね。みんなお願いの顔をしてごらん?  
 全員: (やってみる)  
 T: 「安いわ〜」はどう? Tさんの言ったことの中にヒントがあるよ!  
 (セールセール、タイムセールというつぶやきが聞こえる)  
 T: 「セール」っていうのもいいね。「おつりください。」は?  
 児童G: なんとかプリーズ  
 T: pleaseは使えそうだね。おつりはchangeなので…  
 児童G: 「change, please!」  
 T: オッケー! Hさんは、changeとpleaseを上手に使いましたね!

話し合いの内容から、前時に比べて英語を使った表現を工夫して使いたいという意欲が高まっていることが伺える。くり返して買い物ゲームを行ったこと、これまで学習した英語表現を覚えて使うことができるようになったことが要因であると考えられる。また、第1次に児童Aが感想で書いていたように難しい表現を使うことだけでなく、自分の知っている単語だけでも非言語などを交えて工夫して表現することで、気持ちが伝わることを実感を持って理解している様子も見られた。また、楽しく自分なりに工夫しながら友だちと関わっている子どもを教師が取り上げ、価値づけることによって2回目の買い物ゲームで真似しよう、自分の工夫に取り入れようとする姿も見られた。第三者としてやり取りを見たりアドバイスをしたりしていた店長からの感想もこの後発表する時間を設定したが、これも子どもた

ちにとってはよい励ましとなった。その後、「話し合ったことを生かしてもう一度買いものゲームを楽しもう」をめあてに2回目のゲームをスタートした。2回目は、どの店も1回目よりも活発に体全体を使って楽しくゲームを行う姿が見られた。以上のように、子どもたちは友だちと相談しながら個の伸びとともに学級全体で話し合うことで自分を表現する力を伸ばしていった。

#### 4 成果と課題

以下は授業後の子どもたちの感想である。

- 今日、お買いものゲームをやったけど、最初私は店長でどんなアドバイスをするのかなと思っていたけど、みんな予想以上にうまくてびっくりしました。お客さんのときは、「まけて」を英語に直してしゃべってみました。2回目のお店は「オール1 ビビット」を使って全部売ることができたのでよかったです。前より英語をしゃべることができました。(児童B)
- 今日、班で店長をつけてやってみただけど、やっぱり店長がいると相談できるのでよかったです。2回やるとたくさん買った分だけもうかったからよかったですし、商売上手になれてよかったです。前より英語がたくさん使えてよかったです。(児童D)
- 今日、グループでお店をやりました。となりの人と相談して、よりうまくできるようになりました。1回目は、日本語が多くなってしまったけど、2回目は習った単語などを使えたのでよかったです。なによりいろんな言葉が使えるようになったのがよかったです。(児童U)
- 今日、1つのものを安く売ったらすごく売れてよかったです。買うときも「ダウン、ダウン」といってまけてもらったりしてたくさん買えました。この前よりも英語がたくさん使えました。お店で安く売ってくれたお店があってすごく助かりました。すごく楽しかったです。(児童F)
- グループの人と「こうやったらお客さんが来るかも」やいろいろなコツを出し合いながらやって1回目は売れ残ったけど2回目は売れ残りがなかったので、話し合いでみんながコツを出し合えたことがよかったですと思います。(中略) 意外とお客さんがいっぱい来てくれたのでお金が集まってうれしかったです。前回知らなかった英語を知ることができたのでよかったです。(児童H)
- 初めて班の人といっしょにやってみて、1回目は店長をやったんだけど、ほとんど売れ残ってしまっとうまくいきませんでした。でも、1回目のあと話し合っ、セットにすると売れたっていうのを聞いて2回目はやってみたら、けっこう売れて、今度は売れ残りが出なくて、自分たちでもびっくりしました。あと、最後にオールワンにしたら売れたのでよかったです。(児童I)

これらの子どもたちの感想をから次の5つの要素が見つかった。

- ア) 友だちのよさをみつける。(児童B)
- イ) 習ったことを場に応じて使ってみようとする。(児童B, F, I)
- ウ) 相談したことによってわかったことや見つけたことがある。(児童H, U)
- エ) 2回目はうまくいった(思ったようにできた)(児童D, H, I, U)
- オ) 前より英語を話せてよかったです(児童B, U)

買い物ゲームをくり返し行い、その間に話し合いの時間を設け、英語を使った表現について学び合いの時間を取り入れたことでウ)エ)のような姿が見られたことから、子どもたちが学び合いを通して自分なりに工夫して伝えようと考えを広げたり深めたりしながら思考力を高め、自分で判断して選んだ表現を使って英語というツールを使って自分の思いを相手に伝える表現力を獲得していったことが考えられる。また、ゲームを友だちと楽しくかかわり合いながらおこなったことによりア)オ)のような姿が見られたことから、コミュニケーション能力を高めていくためにもっとも大切な自らかかわろうとする態度が養えたことが考えられる。そして、英語表現に関して、インプットの量が少ない小学生でもイ)のような姿が見られたことから、場面や状況、相手の表情などに応じて言語材料を選択し使い分けること、つまり判断力が育っていることが考えられる。

以上のような学び合いの中で、教師は子どもたちに「やって見せて」「どうしてその表現を選んだの」などと問い返し、掘り下げることで子どもたちは、自分の英語表現について立ち止まって考え直したり、もっと工夫して表現しようとする工夫したりする姿が見られた。しかし、子どもたちにとって、もっと使いやすく工夫する余地のある教材を工夫する必要があると感じた。また、楽しく活動する子どもたちの学習活動の中に、どのタイミングでどのような視点をもたせて話し合いの時間を設定すれば、子どもたちにとって効果的な学び合いの場となりえるかは今後検討していく必要があると考える。

(文責 釜田 美紗子・福島 歩惟)